
新・鳥が見ているもの

鳥雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新・鳥が見ているもの

【Nコード】

N2478V

【作者名】

鳥雄

【あらすじ】

またきたよ……。理由は第1話に書いています。

す。

こういう番号の人で小児医療だ、とか3割負担の人だとか、後期高齢者だとか。本人がこなくて家族が来たときでも本人がどういう保険証をもっているかがわかるわけです。

普段はめつたに気にはしない。だけど、保険者番号を気にする時・・・ずばり、それは生活保護の不正受給者！！

ぱっと見てわからなくとも、いずれはばれるよ。あんたたち・・・わかるよっ！！なんでこんな人が生活保護何じゃ？許可したというか診断した医師は一体どこの誰じゃっ！！！！？

というケースもごくごくまれでもあるときはしつかりとある。

今年の大震災の影響並びに近年の不況で生活保護申請はウナギ登り。それはよい。一時的なものにせよ、助け合うのは国民の務めである。

その上、ぼくらは住民税や固定資産税、自動車税、厚生年金とかいろいろ・・・とかではつきりいつて盗られすぎ、いや、取られ過ぎという感覚もある。が払えないわけではないのでそれは観念して払っている。消費税も上がるし、もうしょうがないなあ、と思う。

税金は困った人の助けや公共の益になるようなことに使っていただいて当然だ。だけど、腹が立つのは不正受給者。（一部の政治家もそうだけどそれを言い出すと話しが長くなるので割愛する）

本当は困っていないのに、本当は健康なのに、働けるはずなのに、お金があるはず？なのに、生活保護を受ける輩。ずるがしいので絶対にしつばはださん。かつある程度の疾病は「過去」は確かにもっているが現在は小康状態でかつぎりぎり常時薬がいる状態。

本当の疾病患者と本当に困っている方々に悪いのでここには詳細はかかないが、生活保護がもらいやすいという病気は確かにある。

ここには書かないが専門職張りの（自己の病気のみだが）医療知識を持って薬の量を自分で自己調節して症状を加減して「やっぱり働

けません・・・」というヤツがいる。

医療職は全部わかってんだぞ。この矛盾。

生活保護の不正受給者は基本的に時間があってヒマ、病院でこまごまと症状を訴えて結構高価なMRIやCTなど検査を受けまくって小さい腫瘍などみつかったても早期発見で無料で治療してもらい入院生活を満喫してゆつたりのんびり生活する。

仕事なんかしてないから、退院後の生活とか心配しなくても生活保護費が出る。

一方我らがあくせく働いて一生懸命働いて、体調不良でもなかなか休みが取れなくて病院に行けなくて、やつとのもので休みが採れたので病院で精密検査を受けても、（それも1日で結果はでない。精密検査も初診で全部してくれない。予約待ちでやつと検査を受けたら今度は検査結果を聞くためにもう1日休暇を取らねばいけない。合計3日はかかるわけだ。会社つて青年、中年熟年はなかなか3日も休めんぞ）そんで悪い診断をもらってもなかなか手術ができない長期の休みがとれない事情があったりする。で、基本的に一番の働き盛りなのに、発見時には手遅れで予後が悪かったりする・・・。

こういう矛盾を目のあたりにすると怒りがこみあげてくる。

「忙しかったんで・・・あのとき人間ドッグも受ければよかった」

「幼い子供の今後の生活が心配でおちおち入院もできません」、とか入院のベッドまで仕事を持ちこんでくる人を見るとかわいそうではない。

一方、マジで本当に働けない状態でしかも医療費の支払いも苦しい。事情を伺って生活保護の申請をすすめたが窓口で門前払いをくわされました、と言ってこられた人がいる。

「なんで？・・・あなたの場合は申請すべきだと思っよ」

というところ今生活保護申請で手いっぱいであんたは自分自身で役場まで来られるだけ元気でいいじゃないか、その気になれば働けるよ、つと言われて返されたそうだ。

ちゃんと話し、聞いてやれよ、役場の窓口担当。

その場でケースワーカーを紹介して正規の手続きと助言を受けてくださいといったが、その後彼は病院にもやってこなくなつた。

余談だが病院側は定期的に来る患者がいきなり来なくなつても、「どうしたの?」とかは基本的には聞かない。(手術日とか入院予定の人は聞くけどな・・、ばつくれるひとたまゝにいるから)

慢性疾患ですつと薬を飲まなくてはいけない人が突然こなくなる、とどうしたのかな?と思つてもどこか別の病院の良い医師に出会つたのだろう、とか思うのでいちいち最近来ないけどどうしたの、なんて聞かない。またそんな時間がない。怒涛のごとく患者はいつでも押し寄せてくるので、一個人の患者にいちいちかわつていられないというのが本音だ。

やつつけ仕事とは自分で認めたくはないが大きい病院になるほど、「情」一なさけーというものが通いにくくはなる。残念だが、でも万一金銭的な面で通えない人はケースワーカーに相談すべき。当然基本、秘密厳守です。

また病院側に対して不満がある・・これも匿名で投書とテがあるのでぜひ利用してほしい。

一番怖いのはサイレントクレーマーだという。黙つて何も行動を起こさず、そのまま不満を持ったままの人。

病院もアホばかりではないので、言いたい事や聞いてほしいことがある人はぜひ行動をおこしてください。病院に勤務している人は全員が自分の仕事で手一杯で忙しいが、患者の要望を聞く余裕をもつてこそ、医療だと思う。(しつこいモンスターペイシエントはまた話しが別です。これは後述します。)

第2話・病人に対する看護師の虐待

いろいろな話を聞く立場にあります。

今回は虐待関連。社会的現象とも言われ気味だが、実は虐待は昔からある。ちよつと昔の日本でも初潮も来てない少女の売り買いもあつたし（昔の日本では場所指定で売春が公認されていた）働けなくなった老人も田舎の山や沼に捨てられていたというし。

だが今は現在の話しでかつ治安が良く保健関係も完備？されている住みやすい？日本での話し。

小児虐待、老人虐待。虐待も対象によっていい方が変わる。

それは弱い立場で抵抗できないひとを一方的に身体的もしくは精神的にいじめるもの。それが虐待。

だが最近マスコミで報じられるケースでは悪質なことが多い。

虐待する人の心理。それはその状況か生育環境までさかのぼらな
いと解明できないか、もし解明できても根本的に人間は性善説な生
き物だと思うが、でも3分の1は性悪説めいたところもあるので絶
滅はしないだろうと思う。された被虐待者の心理はまた別の話にな
るのでここでは書かない。

今回は病人虐待について。（老人、小児の場合は後述します。）

悪いことに虐待は発見されにくい。見つかっても施設や病院と言
う密室の中で複数の介護人がいる場合はさて一体だれがこんなこと
をしたのかわからん、ということもある。

あまり悪質な場合や死に至らしめた場合は、当然逮捕という形で
社会的制裁を受けることになるが、それは氷上の一角と見ている。

筆者が最近聞いた話しはこうだ。

患者は80歳代、脳梗塞の再発で全身マヒがあり寝たきりになった。食事やトイレ何もかも介護する必要が生じる。医師はこれ以上治療しても改善しないだろうと、施設入所をすすめるも、本人の意志表示がはかろうじて動く右手で文字盤をつかっている。

本人は施設入所は望まない。きっと治るに違いないと病院治療を望んだ。

だが、脳梗塞で硬縮が固まり、リハビリは定期的にはいるもの、もうこれ以上の改善は望めない。またこれ以上の治療もないし、現状維持の状態。

これを何度本人や家族に説明してもがんとしてゆずらない。一応受け入れ先が救急指定だったので、救急期を脱すると医師の紹介状等を通じて転院という形にしてもらわないといけないが、本人に糖尿病あり（インシュリン注射あり）胃ろうあり（1日3回の食事ごと）に栄養剤を胃から入れないといけない）トイレは行けず紙おむつ対応（介護が大変）の3重苦。

この上に咳や痰が自力で出せないで、定期的に様子を見てその都度吸引しないといけない。これがどういふことかというのと、受け入れ施設がないということになる。あつても期間限定。次の次までの受け入れ先を決めないといけないのだ。

昔はこういう人でも家庭で看ていた。だが今は時代が違う。他人に介護してもらって当たり前なのだ・・・というのは抜きでその人に関しては家庭で看れない事情があつた。

（この考え方にも一部異論が鳥にはあるが長くなるのでまたの機会に詳述したい。）

インシュリン注射や胃ろうへの処置は基本的に看護師がすることになっている。吸引もそうだがいざはヘルパーが処置するもの可能になるだろう。（今はしている施設があつても基本的には違反だがそれをいうとやっていけないので、黙認状態である。）

さてこういう状態でもう半年も入院している。おしどり夫婦なので膝腰の弱っている奥さんが杖をつきつき毎日付き添いにやってくる。経済的には心配ないらしく毎日行き帰りタクシーでくる。娘が1人いるがこれが病弱で毎日別の病院通いの状態。つまり中心になる介護人や受け入れ先のない病人と言うことになる。

この奥さんがいつもものように朝の8時にタクシーにのっておなじみの愛する夫の部屋、個室に「おはよう、あなた」とやってきた。すると主人の様子が変で、奥さんの顔をじつと見つめて泣いている。一生懸命胃ろうのお腹を示して何ごとかを訴えるが発語ができないので、何を言っているのかわからない。

いつもの感情失禁にしては変だ。

「お腹が痛いのか？」

「お腹がすいたのか？」

いろいろ聞くが首をふる。(首をいやいやする動作と右側の指のみ動く)奥さんはふと思いついて

「・・・看護師にいじめられたのか？」

すると夫は奥さんの顔をじつと見つめてうなづくではないか！

しかしそのあとがどういういじめられかたをしたのか皆目わからない。

奥さんは鳥に必死に訴える。

「ええ、食事介助もトイレ介助もしてもらってます。だけど何かが変わなんです。主人がいじめられているのです。本人がそう思ったから！」

正確には本人の意思表示から話しがはじまっている。

こういう場合、双方から話を聞くものだが、本人の勘違いということも多い。だが看護師にもいろいろいるのも知っているから勘違いと言うこともなくはない。(残念だが看護師は奉仕の精神がないとできない職業と思っている方も多いがそうでもない。白衣の天使って言葉はうそっぱちだと思う。)

結局婦長が本人に対して時間をかけて文字盤を介してきいたところ、1、夜間のナーススコールを押せないように棚の上にわざとあげられてしまった。2、胃ろうに栄養剤を入れるたびにお腹をつねられる。(しかしつねられた形跡はない) 3、食事にむせてこぼしたら、たたかれた。舌打ちされた。4、トイレ介助のときにつばをはかれた。

以上。動けない本人にとっては言葉も言えないしつくづく自分が情けなくてしかたがなかったのだろう。しかし彼はぜんぜん呆けていなかった。視力もよい。その看護師は？と婦長が問うと　さんとはつきりと文字盤で示した。

さんに婦長がよくよく話を聞いてみるといつもつきその奥さんがいて、介護がしにくい。いつも見張られているように感じて苦痛だったという。それでいらいらして奥さんのいないときにちよつと乱暴な扱いをしたかもしれないと言った。

だが、本人が涙を流しながらお腹をつねられた、と訴えたことは　さんは「あの人の勘違いです」と言い張る。証拠もないので婦長も強く言うわけにはいかない。

結局婦長が今後看護師に笑顔と思いやりの仕事をするようにと言われて、うやむやにされた。

・・・こーいのは新聞には出ない。しかし日常的にありえる話しだろう。看護師もヘルパーも今は人手不足で、勤務もいっぱい。疲れの無理はない。

しかし家族がいつも付き添いと称して見張っている状態だと感じると家族がいない夜間にそのいらいらのツケを患者本人に対して憂さ晴らしをするわけだ。

(患者のいうことが本当ならば彼が泣くのも理解できる。そういういじわるな看護師でも尿や便をとってもらい、胃に栄養剤や薬を入れてもらわないと生きていけないからだ。鳥はこの患者の人となりを間接的にだか知っているので、プライドが粉々になったのだろう

と思う。彼はほっとくと鬱病になりかねんと思った。）

新聞にでるのは生爪はがし、携帯カメラで痴呆患者に変な格好をさせて笑い物にするなどの肉体的や精神的に行きすぎた虐待である。殺人にいたってはボールペンで目をついたり、肋骨を折ったりする看護師がいたが、それもありうる話したと思う。

弱い立場を強い立場の側が虐待する。軽い気持ちで会ってもそれは犯罪になる。それがわからずストレス解消の対象にするものは正に悪人である。だが表面にはでなくともいつかはそれが白日にさらされることになるだろう。

残念だが虐待はゼロにはできない。だが虐待する側の意識改善はある程度はできるはずだ。看護師やヘルパーに限らず医師等も、医療従事者たるものは人の心の痛みをわからないとプロとしての仕事はできないはずだ。

第3話・医師の看護師に対するパワハラについて

医師がやる看護師や医療事務員に対するパワハラの話し。

結構見聞きするが改善方法を聞いたのでここに書く。(簡単な話なのでなーんだと怒らないください。)

医師は忙しい。いや医療にかかわるものはみんな忙しい。だが医療のヒエラルキーのトップにいるのは医師だ。治療方針や薬品の処方にもリハビリや病人食の裁量権をもっているからだ。自分の指示で他の医療者は動く。責任重大だが日々の業務に忙殺され、それで他者への思いやりを失っていく。

目の前の仕事もやっつけ仕事になる。いけいけどんどん。患者はたくさんいる。やってもやっつけても仕事は片付かない。心が渴いてしまふんだらうね。かわいそうに・・・。

だがストレスのはけ口にされる患者や看護師はたまらん。あの先生、怖いって言われてるのも気づかないパワハラ医師。

ある病院にそういう医師がいた。年齢40代はじめて医師としての経験も積み、正に脂がのっているベテラン。しかも当直を嫌がらず積極的にこなしてくれる。勉強熱心で大変貴重な医師である。ただ欠点があつて彼は言葉遣いが大変乱暴なのだ。

患者に対しても説明の呑み込みの悪い人には露骨に嫌な顔をする。

(ありがち) 若い時はそうでもなかったらしいけどね。特に当直で急を要する時に、看護師が思うように動いてくれないと怒鳴る。患者がいようがいまいが怒るのだ。

「なぜもつと早く器具を出さない」

「こんなことも知らんのか」

「段取りが悪い」

「医者を持たせてよく平気だな」

「何年看護師をやっているんだ、あほ！」

「同じことを何度も言わせるな」

すみません、すみませんといいつつ患者の前で涙を見せないで健気に働く看護師。

段取りうんぬんで怒るならば、診察マニュアルなど改善すべきだろうが。その場その場で怒っても何も解決しない。でも彼には時間がないのだ。それで自分の思うように動かない看護師に怒る。怒ってもしようがないだろ、あんだ。

でもそれは言えない。言えばどれほど胸がすつとするか。でもそれでは解決しないし何より遠慮つてもものがある。だからまわりのものは何も言えないでいる。

あの先生と当直ペア組みたくない、大っ嫌い。

その声が相次ぐが、医師に対して看護師はそういう苦情があるのを、たとえ婦長という役職であつても大変言いにくいものだ。

一計を案じた婦長と事務方はあるとき病院研修でパワーハラ特集を組んだ。講師を呼んでミニ勉強会を開催したのだ。業務終了後の研修は出席義務はないので有志でやった。

だが病院研究と名乗った以上は報告として「回覧」というものがまわってくる。研修会で使用した（講師が配った）プリントやスライド内容を閲覧できるようにするのだ。それにちよこつと細工する。婦長はその勉強会のあとの参加者の匿名での「感想」も一緒に入れておいた。のだ。受講した看護師たちに今まで受けたパワーハラも書いてその感想も書くのよつていったのだ！

そして医局に行つてその先生の机の上に特に目立つように!!! その感想一覧も置いといたのだ!!!

「あれもパワーハラだったのだと講師に言われて、今気付きました」

「こんなこともできんのかつて言われました」

「患者の前でこれじゃないつていつてるだろつて揃えた盆ごと放り

投げられました」

「呆けた患者本人の前で診察終わったらさっさとあっちへ連れて行
けて言いました」

「回覧」と称した以上は閲覧したら自分の名前のところに印鑑を押
さないといけない。熟読しないまでもざっと読むだろう。婦長の読
みは当たった。

で、ちよつとは小言、おさまったそうです。その医師も人の子。
それにバカじゃないから、これ全部自分のことだなってわかったみ
たいですよ。

ね、なーんだと言わないでくださいよ。はははは。

第4話・美容整形とダイエットの話

今日本の国の中では若い女性はやせている方が美しいと大多数がおもっているようだ。（鳥はそうは思わない。結局は本人の魅力だ。体型じゃない。）何よりも女性自身がいつもやせていたい、やせていたいと思っている。やせてないといい服が着れないというか売ってないし、異性の目もある。太っていると軽視される。それはよくわかる。

雑誌はじめメディアではビジュアルで見た目重視でやせている人ばかりアップするもんだから、太ったタレントは例外なくキワモノ扱いである・・・よな。

やせていてかつ美人であること。最重要な人生の課題だという人も多いと思う。ダイエットと美容整形。どちらも現在では必要なことでもある。全面的には賛成しかねるが鳥はそれもありだろうし、鳥もほっさりしていたいし、美しく(?) ありたい。のでわかる。だけどいきすぎはよくない。

男女の区別なくタレントやモデルは顔をいじっている人が多い。左右対称に近づきすぎるとかえって不自然に見えるがそれが皆わからないのだろうか? 人気を誇るイケメンといわれる新人タレントもそうだ。女性もそうだ。

レビュー前には人に好かれるために好かれやすく人気を出すために整形させると聞いたことがある。証拠出せと言われると弱いがそれで実際人気が出ているのでそれはそれでいいのだろう。多分本人も納得の上だろうし。

だが大多数の人に好かれると言うのは最大公約数になるということ、どうしても一見しての顔が似てくる。若いタレントで顔が似ているよな・・・あれ区別がつかんよな。というのもあって(そういいだすのは年寄りの証拠。鳥も年寄りなんだろうな)若い人って

区別ついているんだろう、と思うしかない。

美容整形外科医の暴露話の1つにあるタレントユニットは同じ人が手術したので鼻がユニットごと一緒だというのがあった。鳥もその写真を見せてもらったが、鼻が一緒というのはわからなかったが、日常的に手術している人はわかるのかもしれない。

ただ微妙な二重瞼で切開までいくとへたな外科医にあたると傷の処理がうまくいかなくて傷が光ったり、眼のラインがいびつになったりしているのは見たことがある。(医療従事者特に形成外科関連者ならわかると思う。普通の人ならわからないので安心してください。わかってても常識ある人ならいちいち言いたてませんし。)

変な横道にそれてしまったがダイエットの話。うん、ダイエットはいわゆる健康を害するくらいの不健康なやり方をされているならばした方がよい。だけど無理してやるほどのことはないと思う。

ましてや苦しい思いをしてまでではない方がよい。それよりも栄養のあるものをバランスよく楽しくおいしいおいしいと感謝しつつ食べるのが人間の食事のあり方だ。

しかし見た目重視、ほつそり体型上等の今の日本ではそうもいかない。それでダイエット業界の出番でこれがいいとマスコミで放映されてもしたら大儲けできる。

ダイエットに王道なしでいろいろなダイエット方法、スポーツ系、器具系、薬品系、食事系。どれも売ればそこそこ儲けがでる。

鳥がいけないと思うのは多少健康を害してでも大丈夫と思わせる薬品系だ。今の10代の若い女性は薬を怖がらない。ピルを飲むのも平気だ。生理を2、3日遅らせたり早めたりする薬はごくごく普通の学生でも入手できるから副作用も考えずに飲む。害がないのは当たり前という風潮があるが、実害があつて薬にあたってしまった女性も鳥は見ているせいかも少し薬には慎重に服用してほしいと思う。(医師や薬剤師はこのためにいるのだと思って少しでも不安があれば聞くこと。だけど全然不安に思わないひといるんだよねー、

世の中怖いものないんだな)

特に甲状腺ホルモン系のダイエット薬もしくは利尿剤系はいけな
い。確実にやせれるが確実に病気になるぞ。特にまだ身体が出来上
がってない未成年、10代の女性はいけなと思う。

無茶なダイエットを10代のときにしたばかりにそのつけが30
代ぐらいにまわってきて不妊や婦人科系の病気になったりもしてい
る。生理がなくなるまでのダイエットは危険ではあるが誰も統計を
取らないので(忙しいし面倒なんだろ、みんな。鳥だって統計なん
かとれんわ)証拠も論文も出せんが、臨床の現場にいる人なら実感
としてわかるのではないかいな。

こういう話しがある。ある女子高に新体操系クラブがあつたが、
その顧問がダイエットの正確な知識もないのに、やせる、やせる
と言う。みんな友達で互いに教えあつて絶食だの食べ吐きだのダ
イエツト薬品や薬品に手を出した。そしてそのクラブでは生理が
ないのが当たり前になった。

みんながそうなら生理がなくても平気だったのだ。思春期もあつ
て親に相談もなく、ダイエットしたのだらう。また競争意識もあつ
たのかもしれない。みんなやせたそうである。

恐ろしいのは20年後の話で同窓会に行つてはじめて、そのク
ラブにいたほぼ全員が不妊もしくは婦人科系の疾患をもっていたと
いう。うつになつた人も多い。これはあの時のダイエットがいけな
かつたのではないか、と1人だけ看護師になつた子が言い放つたそ
うである。これは生理がなくなるまで長期にわたる不健康なダイエ
ツトをした人たちの実話である。鳥はこの話を聞いて一番いけない
のは知識もないのにダイエットを強要した顧問教諭だと思つた。罪
深い話ではある。

一番ゆるやかな印象が強い置き換えダイエットも、自然着色や美
容に良いとされているカラーゲンなど混入していることを強調して、

説得力の強いタレントを起用して宣伝しているが惑わされないように。一番小さい字で書かれている各種添加物をよく見てから購入してください。鳥も利用したことはあるが口当たりがよくておいしいかつ満腹感も出る。ある程度は体重は落ちる。だがやはり不健康だ。また原材料はコストが非常に安く定価の大多数は宣伝費用にかかっている。一応置き換えダイエット食は100円シヨップにも売っていることからそれはわかるだろう。(ブランド化粧品と同じだよ。口紅なんか原価50円以下で作れる。化粧水もだ。作り方希望者があればただで教えますよ)

一番いいのは妹にも言ってるが植物性たんぱくや果物を適度に取りることだ。また脂分も最低限ある程度とらないとだめだ。脂は味方であって敵視してはいけない。カロリーも大事だがバランスある食事内容がもっと大切だろう。そういうのはみんなわかっているがこゝというのは説教がましいし無料だから説得力がないのかもしれない。

第5話・モンスターペイシエント

モンスターペアレントという言葉はあっという間に世間に認知された。

さて医療機関におけるモンスターペアレントを「モンスターペイシエント」といいます。生徒の親ではなく、医療機関における患者様もしくはそのご家族のことです。

クレマーとかでは意味合いは似てるようでも全く違います。(でも昔から名称がなかっただけで両方ともいたよな)まさにモンスター)

病院も長いこと勤務しているとやはりいろいろなこともあります。

いましたよ、モンスターペイシエント。

会いましたよ、モンスターペイシエント。

しゃべりましたよ！モンスターペイシエントと。

一番印象深いのはある女性患者さんの息子さんです。親思いの息子さん・・・では全然なかった。あわよくば病院の些細な落ち度からお金を取るう取るうとする非常に分かりやすい態度を取る息子さんであった。なぜ知っているのかというと鳥がその病棟の担当かつ当事者の1人だった。

息子さんの言い分は以下の通り。

入院中に、とある検査を受けていたんだけどはずになっていたが、前日その患者さんが眠れないというので睡眠薬を看護師さんがあげた。これはあらかじめ頓服で処方されていて患者さんが不眠を訴えれば医師の指示がなくとも1回分投薬できるようにしている。だがどういうわけかその薬が効きすぎて(注：これが息子さんの言い分)検査の時間までに起床できず延期になってしまった。延期とい

つても午前の検査が午後になっただけ。付き添いの息子は午前中の仕事を休んでまできたのに、いったいどうしてくれるのか！という訴えだった。

その患者さんは大部屋にいらっしやるので、担当医は息子さんを詰め所に入ってもらい冷静に説明している。急を要する検査ではなく、午後から入ってもらうことになっているから心配なきように・
・また検査結果の説明は後日でも都合のつくときに説明はさせていただきます。また睡眠薬はきついものではなく、入院前と同じモノを投薬した。もう起きていらっしやるし薬に常習性等はないのでどうぞ心配なきように。

ところが息子さんの言い分は常軌を逸している。

「あのな、俺は9時から始まる検査のつきそいのために仕事を休んできたんだぞ。あんなにきつい睡眠薬をあげて、お母ちゃんの身体にもしものことがあつたらどうしてくれるんだ！忙しいところ休んできた仕事のこともあるし、病院としては誠意をみせてほしい」

誠意・・・？医師並びに婦長以下ほか全員、目が点。

「そうだ、誠意を見せろよ。不要な睡眠薬をわざとのませたんだろーが、これは病院の失敗じゃないか。予定通りに検査も受けられなかったしなんとというひどい病院だ。いいふらすぞ。さあ、誠意を見せろよ」

彼の言う誠意は非常にわかりやすく要は金を出せと言っているのだ。だが直接これをいうと恐喝でひっぱられる。

頭が良いか悪いかわからない恐喝者ではある。が、彼は非常にねばりづよかった。このしょうももない類のクレームをつけてよその商業組織等で誠意とやらをみせてもらった経験があつたのかもしれない。

午前でしか休めないといっているお忙しいお身体のわりに、ずっと詰め所にいすわって説明している医師をじーと見ているだけである。医師も説明はすぐ終わったし、後の患者もつかえている。この忙しいのに困惑している。だが患者の家族が自分の前に居座って

いる以上さつさと退席できない。

医師によつては「今説明したことが誠意です。今日は失礼しましたが今後の治療はおまかせください、んじゃっ！」とさつさと退席する医師もいる。というか普通そうだろう。

でも、そういうのができない超まじめな人だった……。婦長も最初は言葉をつくして優しい言葉をかけてやっていたが、金欲しさがみえみえになってくると無言。スタッフも無言。鳥もいたたまれない。そしてその医師と婦長以外はそくさといつものルーチンワークや病室廻りをはじめめる。

鳥も病室訪問をひと通りしてまた詰め所に戻ったが、いや、驚いた。まだいる！もう昼近いのにまだいる！あんた、息子さん、忙しいのじゃなかったのか！
「誠意を見せる、見せるよ、あんたができないなら院長にあわせるよ」

お母さんの検査が今日午前中にできなくてかわいそうだから誠意を見せろという息子さんは結論で言うとお金は包まれなかった。当たり前だがしかしこういうことで忙しいのというわりに詰め所で2時間以上もいすわる患者の家族！

別に支離滅裂な病的な論理を振りかざすのではなく、見た日本当にごく普通の人だったので医師も困ったのだ。医師も婦長もその人の前から退席せずだんまり合戦を決め込んだのであきらめたのだろう。しかし無駄な時間を過ごしたものだ。それでよかつたのかもしれないが、もつと良い方法もあつたのかもしれない。だが現場で居合わせた1人としてはあの時あして暖簾に腕押しの状態で相手があきらめるまでじつとしていて、というのも良い作戦だったといえる。鳥は断言する。

というのは相手が激昂して他の患者に対しても迷惑行為をしたらそれこそ逮捕ものだし、「金出せ」という一言は絶対に言わない。ということとは相手は警察が怖いのだ。だからあれはあれでよかつた

と・・・。

反対に絶対に患者や家族に絶対に責められない医師も知っている。今から述べる医師だ。予防的な参考にしてください。悪い見本も混じってますが・・・。

最初から患者であつても患者の家族であつても説明は最低限しかしない。本人が納得しなければ「よそへ行けば？」という。ちょっとでも質問にくいさがるとそっぽをむく。仕事はきちんとするが、性格が悪い医者ということになる。

（悪い患者は寄りつかないがよい患者さんも寄りつかない。でも患者さんは次々と押し寄せるので患者さんが来てくれなくてお給料がでないということは絶対はない。うまくできている。）

本人が説明がよくのみこめなくてぼやっとしてたら「はい、次の人」と言う。わかっていてもわかっていなくとも「はい、次の人」でその人はおしまい。患者のことなんか気に掛けない、心配しない、どうでもいい。（きちんと言明を求める真摯な患者さんは寄りついてくれない。でも全然平気。）

本人が自分の状況説明を長々しだと「看護師さんこの人早くどこかに連れてって」（慣れてるので看護師はタイミングよく両脇に患者にやさしく寄り添い、待合室に戻りましょ、ってささやく）

こつこつ竹を割りすぎたような性格の医師はモンスターにはからまれにくい。でも患者に好かれにくいというのもあるが本人はそれでいいみたい。最低限のお給料はもらえるし、その分自分がしたい研究とかに時間がさけるのでいいのだろう。

誠実でおやさしく、まわりがいい人ばかりで育ってきて、性格がよすぎてぼくでいいですか？というような自己評価の低い医者が狙われる。（モンスターだけでなくお金やステイタスを求める猫かぶ

つた一見美女の悪女にもひっかかって結婚したりする。人生を棒に振る。そういう人を知っている。かわいそうに・・・)

悪辣な人を怒鳴れない性格のいい医師が対応でまごついてモンスターの餌食にされるのではないかな？きっぱりとした態度も大切だと思った。

鳥は他人さまからわりと変わっているとか言われる性質でモンスターすれすれの患者(しつこい、病的なクレーム、泣く、つきまとう)のどれもなんとなく彼らの気持ちがわかるせいか、かわせるのだ。

鳥のやり方は以下の通り。

しつこい・・・あと5分ぐらいなら時間がさける。入院中なら明日もこの時間ぐらいに来てもいい？とか聞く。またあなたのために時間を割くよ。でもいつも忙しいからちよつとだけよ・・・と目をみてやさしくいうと結構納得してくれる。

病的なクレーム・・・自分の時間が許す限り「一度」は最後まで話しを聞いてやる。こわれたCDのように何度でもリピートするタイプも「一度」だけ聞いてやる。お話はよくわかりました、1人で悩んでつらかったねって握手が肩などやさしくさわる。案外これでおとなしくなる人が多かった。みんなさびしいのだ。

泣く・・・自分勝手な患者に多いが常時被害妄想的。妄想となると容易に解けない。勝手にしくしく泣かせておくに限る。本人も自分ではつらいと思つて泣いているが本心では「泣きたいから泣いている」のがわかつている。だからある程度はほつといていい。(ただし精神科治療域に達している場合や自殺願望がひどい場合はほつとけない、薬物療法など早急に開始しないといけない)

つきまとう・・・これもさびしいのだ。一人ぼっちの老人とか子供とか。看護師さんで忙しくとも気持ちに余裕がある人は仕事でも一緒にいてあげる。(よその病室とかには当然入れないが外の廊下で待たせたりする)詰め所にいるときは一緒に連れていってあげる。

鳥の知っている人は主任に嫌みを言われても平気で「私が責任を持ちますので」と言い返していた。気持ちに余裕があり仕事もできる人だった。こういう人が本物の看護ができる。血管確保もすんごく上手で患者にも人気があった。主任は「あんたちよつと自分が人気者だと思つてゝ生意氣」とか言つてたけど嫉妬もまじつてんなーと鳥は思つたな。主任の負けだった。

鳥の場合はつきまとわれてもすごく忙しそうにしているとやがてあきらめて去つてくれた。余裕があると世間話もするので気まぐれ野郎と思われていたかもしれない。でも病棟は1つや2つでないのてな、やつつけ仕事ばかりでもう少し気持ちに余裕のある接し方をしてやればよかつたと同じいになつてからちよつとだけ後悔している。(もう鬼籍に入られた方も多いので)

病院の窓口担当が一番モンスターの相手になりがちだろう。一度こんなことがあつた。

誰かがずーと事務室に座りこんでいる。鳥が用事で入室すると顔見知りの元入院患者さんだった。

「あれ、さん、どうしたの？退院したのじゃないの？」

さんの顔が鳥の顔をみていきなり明るく輝く。

「あああああゝ鳥せんせー、入院のお金がへんなの、私そんなにお金払えない・・・でも調べてくれないのゝどうしたらいいのゝ」

「お金の話ならばくも知らんがな、ちゃんと調べてもらえ」
事務員の若い子が困つた顔で言う。

「あの、8時ごろから来られて・・・でもちゃんと説明しても納得されなくて・・・」

事務員の子たちとさんがじつと鳥の顔を見る。鳥は内心さんに声をかけてしまったことを悔やんでいる。

「さん、入院のお金な、ないなら今日でもなくつてもいいんだろ？」

「うん・・・でも」

鳥が事務室を出ると　さんはついてくる。あれれ・・・？

後日払いでもOKなのを確認後に「じゃちよつとどんな様子か話しを聞かせてくれるか？」と言った。　さんは喜んで立ちあがり機関銃のようにしゃべりだした。

「しまった・・・この人しゃべりだしたら止まらなかつた・・・それで隣のベッドの人からもクレームがついていたつげな・・・」と思いつつ病院の長い廊下を2人で歩き話しを聞いてやる。

　さんは一生懸命しゃべった。鳥に話しても解決のしようのない話だったが聞いてほしかつたのだろう。1人暮らしでの生活の不安、健康の不安、将来の不安で頭がいっぱいでかつさみしいのだ。頼りになる身よりもなく心配でいっぱいなのだ。院内を一周して玄関から見送つてやる。杖をつきつき話しを聞くだけだった鳥に何度も会釈して　さんは帰つていった。そのさみしそうな姿は事務室にいた傲慢そのものの姿とはまるで別人だった。空いばりだったのだ。病後なのに頼りになる人もいずお金もない。今度会つたら社会福祉士に相談するようにいっておこうと思つた。

ちよつと優しい対応のモンスターの話になりました。

院長を脅して口止めも完璧にしてたくさんのお金をもらつた凄腕？のクレーマーの話も聞いたことがあります。それは言えない。

医療訴訟沙汰に関してはまだまるで違う話しになります。それはまた今度な。

読んでくれてありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2478v/>

新・鳥が見ているもの

2011年10月26日03時19分発行